

まちニュース



道の駅らら・ミュウ

新規登録、9月オープンへ

小名浜の観光施設「いわき・らら・ミュウ」は一月三十一日、新たに「道の駅」として登録された。市内では「道の駅よつくら港」に続き二カ所目、県内では三十六カ所目。名称は「道の駅いわき・らら・ミュウ」で、今年九月にオープン予定。国土交通省が同日付で発表した。同施設は一九九七(平成九)



「道の駅」に登録された、いわき・らら・ミュウ

年にオープン。「食べる・遊ぶ・交流する」をテーマに、地元で水揚げされた鮮魚や地元物産の販売、海鮮を中心とした食事の提供を行っており、海の恵みが体験・満喫できる。

運営しているのは、県、いわき市、民間団体などが出資した第三セクター方式の市観光物産センター。入り込み客数は近年のコロナ禍で落ち込んだものの、二〇二三(令和五)年度は百三十七万人を記録し、コロナ禍前の水準に近づいた。一年の東日本大震災やコロナ禍による苦境の中、二一年度には「ハグ/いわき いわきをぎゅ/つと」を新たなコンセプトとして策定。公共的な役割を見つめ直し、地域志向の強化に努めてきた。

来年度には、県内で大型誘客事業「ふくしまステイネーションキャンペーン」が実施されるほか、泉町―山田町間に自

動車専用道路「小名浜道路」が開通予定。

これらを見据え、同センターは「おもてなし力」の向上、「常磐もの」の販売力強化、情報・交流の拠点化などを目指し、道の駅への登録を申請していた。今後は、駐車場を二十四時間利用可能にし、妊婦向けに屋根付き駐車場を整備。一部のトイレ区画を二十四時間開放するほか、授乳設備やおむつ交換台のある部屋を新設。道路情報などの情報発信設備も整え、オープンに備えていく。

国際大などでOC「新学科」の説明も

平鎌田、東日本国際大学といわき短期大学のオープンキャンパス(OC)は三月十六日午前九時半から、同大で行われる。学部学科説明、模擬授業、などでも相談コーナーなどが予定されている。また、同大がアメリカやイギリスなどで展開している海外研修制度「二〇二七(令和九)年四月に開学予定の「デジタル創造学科(仮称)」についても説明が行われる。

事前申し込み制で、締め切りは三月十五日まで。本誌裏表紙のQRコードからも申し込み可能。

問い合わせは、同大入試広報課(フリーダイヤル〇二二〇―九六三―三三三)まで。

勉強中の日本語で堂々とスピーチも



日本語でスピーチするコンテスト出場者

国籍を超えた「地球市民」の意識を育む「いわき地球市民フェスティバル」が一月二十五日、市文化センターで開かれた。外国出身者による歌唱や、いわき湯本高生のフラダンス披露などを実施。

「外国にルーツを持つ市民による日本語スピーチコンテスト」では、一般、高等教育機関就学の両部門に、国籍数八カ国、二十五人のいわき在住者が出場。発表テーマは自由。民族衣装などに身を包み、勉強中の日本語で堂々と話した。

このうち、マルトで働くベトナム出身のフィン・ティ・ナさんは「私の日本の生活」と題し、充実した日々を紹介。日本を自

指す「後輩」に「未来の輝く機会を逃さないで」と訴えた。最優秀賞は、一般の部がス・ウェイ・ピョーさん(ミャンマー)、高等教育機関就学の部がモハマド・ファリス・フィトリ・ビン・モハマド・アジジさん(マレーシア)。

5月10日、椿山荘

詩人クワの福島大会

日本詩人クラブの「福島大会」は五月十日午後一時半から、平、いわきワシントンホテル椿山荘で行われる。

大会は二部構成。第一部は、今年度日本詩人クラブ賞・同人賞受賞者の朗読や、「草野三兄弟の詩歌について(民平・心平・天平を語る)」と題した講演。第二部では、いわき市出身で女優の秋吉久美子さんと、同市出身で県現代詩人会会長の齋藤貢さんが「吉野せい」作品について」と題して語る。

参加費は会員、会員外ともに千円。懇親会は同日午後五時からで、参加費は八千円。申し込み締め切りは四月十日まで。申し込み・問い合わせは、福島大会実行委員会の担当・岩田武明さん(電話〇九〇―九〇九七―〇四四四、時間は午後七時―同十時)まで。